

身近な自然に触れながら、豊かな感性や思いやりが

もてる幼児の育成をめざして

～園外保育や動植物とのかかわりを通して～

1 設定期理由

豊かな自然に恵まれているが、子ども達を取り巻く環境の変化により、自然に触れる機会が少なくなってきた。そこで、身近な自然と関わる場を多く設定することにより、見たり、触れたり、試したりなどの直接体験や感動体験を重ねていくことで、豊かな感性や思いやりの気持ちが育つのではないかと思ひ、本主題を設定した。

2 研究仮説

<仮説1>

○身近な自然や動植物に触れる機会を多くし、いろいろな発見や感動体験を味わう中で子ども達の思いを大切に受け止め、共有することで心が豊かになっていくであろう。

<仮説2>

○小動物や植物に触れたり、観察したり、飼育、栽培したりすることで、生き物に対していたわりの心や思いやりの気持ちが育つのではないか。

3 研究内容

○子どもの興味や関心を引き出すような、環境を設定していく。

○自然体験や感動体験を通しての子どもの姿や記録、エピソードなどから子どもの興味や心の変化を探る。

4 研究成果

○自然や小動物、植物とかかわれるような環境を計画的に取り入れ、いろいろな発見をしたり、感動体験をしたりすることで豊かな感性が育ってきている。

○飼育栽培を通して、小動物や植物に興味関心がもてるようになり、それらを通して思いやりの気持ちが育ってきている。